

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成28年5月26日(2016.5.26)

【公表番号】特表2015-512728(P2015-512728A)

【公表日】平成27年4月30日(2015.4.30)

【年通号数】公開・登録公報2015-029

【出願番号】特願2015-504822(P2015-504822)

【国際特許分類】

A 6 1 M 16/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 16/00 3 4 5

A 6 1 M 16/00 3 1 5

【手続補正書】

【提出日】平成28年3月28日(2016.3.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

呼吸障害を治療するための装置であって、通常の近時の換気量の測定量と目標小数との積から目標換気量を計算するように構成され、前記目標小数は、近時の圧補助に依存する、呼吸障害を治療するための装置。

【請求項2】

前記目標小数は、近時の圧補助の安定性が高まるにつれて減少する、請求項1に記載の装置。

【請求項3】

前記圧補助が第1の近時の期間の間安定しており、該第1の近時の期間よりも大幅に短い第2の近時の期間の間も安定していた程度を示すファジィ真理変数として前記近時の圧補助の安定性を計算するように構成されている、請求項2に記載の装置。

【請求項4】

各期間にわたる前記圧補助の安定性は、その期間にわたって計算された圧補助の順序統計量に基づいて計算される、請求項3に記載の装置。

【請求項5】

前記ファジィ真理変数は、所定の最小圧補助を超える圧補助の量が前記第2の近時の期間にわたって僅かではなかった程度を含む、請求項3に記載の装置。

【請求項6】

前記ファジィ真理変数は、所定の最小圧補助を超える圧補助の最大値が大きい程度を含む、請求項3に記載の装置。

【請求項7】

前記目標換気量は、近時の圧補助の安定性に応じて増加される減少レート定数を用いて計算される、請求項1に記載の装置。

【請求項8】

前記圧補助が第1の近時の期間の間安定しており、該第1の近時の期間よりも大幅に短い第2の近時の期間の間も安定していた程度を示すファジィ真理変数として前記近時の圧補助の安定性を計算するように構成されている、請求項7に記載の装置。

【請求項9】

各期間にわたる前記圧補助の安定性は、その期間にわたって計算された圧補助の順序統計量に基づいて計算される、請求項8に記載の装置。

【請求項 1 0】

前記減少レート定数は、前記ファジィ真理変数の値とともに一般に増加する係数によって増加される、請求項8及び9のうちの1項に記載の装置。

【請求項 1 1】

前記係数は、1に、前記ファジィ真理変数の前記値の2倍をえたものである、請求項1 0に記載の装置。

【請求項 1 2】

前記目標換気量の増加レートは、前記目標換気量の上方スルーレートに対する上限によって限度が定められる、請求項1に記載の装置。

【請求項 1 3】

前記目標換気量は、所定の最小目標換気量によって下方の限度が定められる、請求項1に記載の装置。

【請求項 1 4】

呼吸障害を治療する方法であって、

通常の近時の換気量の測定量と目標小数との積から目標換気量を計算するステップを含み、前記目標小数は、近時の圧補助に依存する方法。

【請求項 1 5】

コンピュータ可読記憶媒体であって、請求項1 4に記載の呼吸障害を治療する方法をプロセッサに実行させるように構成されたコンピュータプログラムコードが記録されている、コンピュータ可読記憶媒体。

【請求項 1 6】

通常の近時の換気量の測定量と目標小数との積から目標換気量を計算する前記ステップは、近時の圧補助の安定性に応じて増加される減少レート定数を用いる、請求項1 4に記載の方法。

【請求項 1 7】

コンピュータ可読記憶媒体であって、請求項1 6に記載の呼吸障害を治療する方法をプロセッサに実行させるように構成されたコンピュータプログラムコードが記録されている、コンピュータ可読記憶媒体。

【請求項 1 8】

前記目標換気量の増加のレートは、前記目標換気量の上方スルーレートに対する上限によって限度が定められる、請求項1 4及び1 6のいずれか一項に記載の呼吸障害を治療する方法。

【請求項 1 9】

コンピュータ可読記憶媒体であって、請求項1 8に記載の呼吸障害を治療する方法をプロセッサに実行させるように構成されたコンピュータプログラムコードが記録されている、コンピュータ可読記憶媒体。